



第70回国民体育大会(和歌山県)における モデル的な実戦試合等の実施



国体では、正式競技、公開競技、デモンストレーションスポーツ（デモスポ）などを実施しており、このうち、都道府県対抗形式で行われる正式競技の実施競技においては、国体という機会を活かした競技の普及・PRのため、競技会と連動して体験教室やエキシビジョンマッチ等のイベント事業を実施している。

「国民体育大会における2020年オリンピック対策・実行計画」では、平成26（2014）年の第69回大会（長崎県）と平成27（2015）年の第70回大会（和歌山県）を新たな女子種目の正式競技導入に向けた準備段階と位置づけ、女性アスリートによるモデル的な実戦形式での試合等をイベント事業として行った。

本年度も継続して、以下の6種目について女性アスリートによるモデル的な実戦形式での試合等を実施した。

モデル的な実戦試合等実施概要

1. 水球

(1) 日時

平成27年9月6日(日) 16:00～17:00

平成27年9月9日(水) 12:50～14:10

(2) 会場

秋葉山公園県民水泳場（和歌山県和歌山市）



(3) 実施内容

○女子エキシビジョンマッチ

水球では、高いレベルの試合を観客に見ていただき、女子水球に対する興味関心を高めるとともに、国体導入後の都道府県対抗形式による競技会実施に向けて、近畿ブロック各府県代表チームによるエキシビジョンマッチを実施した。

○出場チーム

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県

○競技スケジュール

9月6日(日)

16:00～16:10 出場選手紹介

16:10～17:00 エキシビジョンマッチ 兵庫県 - 大阪府

9月9日(水)

(少年男子3・4位決定戦終了後、女子エキシビジョンマッチの準備)

12:50～13:00 出場選手紹介

13:00～14:10 エキシビジョンマッチ 京都府 - 滋賀県

(4) 今後の課題等

エキシビジョンマッチは、少年男子の試合開始前日と同最終日の3・4位決定戦終了後から決勝戦の間に実施した。女子種目実施時にはバウンダリーロープを男子用（30m）から女子用（25m）へ転換する作業が必要であったが、予定時間の大幅な変更も無くスムーズに運営を行うことができた。

国体への正式種目導入にあたっては、今回のイベント事業と同様に従来から実施している少年男子と同会場での開催が想定される。現在3日間で行っている男子の競技日程の変更も検討しつつ、会場転換等も含めた競技運営については、更に円滑に行う必要がある。



2. ボクシング

(1) 日時

平成27年10月4日(日) 14:15～16:10

(2) 会場

田辺スポーツパーク体育館(和歌山県田辺市)



(3) 実施内容

○女子チャレンジマッチ

ボクシングでは、女子種目の普及と日本代表クラスの選手の認知度を高めることを目的に、現在国内最高レベルの選手が参加するチャレンジマッチとして、前年度に開催された第13回全日本女子ボクシング選手権大会のチャンピオンと中央競技団体選出のチャレンジャーによるスパーリング形式の実戦試合をライトフライ級・フライ級・バンタム級・フェザー級の4階級で計6試合実施した。

○出場選手

階級	氏名	所属	主な出場大会等
ライトフライ級	千本瑞規	芦屋大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 LF級 ベスト4
ライトフライ級	小村つばさ	自衛隊体育学校	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 LF級Jr.の部 準優勝
ライトフライ級	佐伯霞	近畿大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 F級Jr.の部 優勝
ライトフライ級	松田恵理	桐蔭横浜大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 LF級 ベスト8
フライ級	和田まどか	芦屋大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 LF級 優勝
フライ級	仲田幸都子	平成国際大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 F級Jr.の部 出場
バンタム級	新本亜也	美つ葉	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 B級 優勝
バンタム級	古川絢菜	芦屋大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 B級 準優勝
バンタム級	箕輪綾子	フローリスト蘭	第11回全日本女子ボクシング選手権大会 F級 優勝
バンタム級	河野沙捺	近畿大学	第12回全日本女子ボクシング選手権大会 B級 優勝
フェザー級	林美涼	平成国際大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 Fe級 優勝
フェザー級	黒木佳菜	芦屋大学	第13回全日本女子ボクシング選手権大会 Fe級 準優勝

○競技結果

ライトフライ級	千本	×	—	○	小村
ライトフライ級	佐伯	○	—	×	松田
フライ級	和田	○	—	×	仲田
バンタム級	新本	○	—	×	古川
バンタム級	箕輪	○	—	×	河野
フェザー級	林	○	—	×	黒木

○競技スケジュール

11:00～14:00 少年男子・成年男子 準決勝
(終了後、女子チャレンジマッチの準備)
14:15～14:30 開始式
14:30～16:00 チャレンジマッチ
ライトフライ級 2試合
フライ級 1試合
バンタム級 2試合
フェザー級 1試合
16:00～16:10 表彰式



(4) 今後の課題等

チャレンジマッチは、成年男子の準決勝終了後に実施した。女子種目は男子と同会場・設備で開催できるため、競技運営上特段の問題は発生しなかった。

国体への正式種目導入にあたっては、現在（男子）の競技日程（5日間）内で女子種目が追加実施されることから、試合間の時間調整等について注意を払う必要がある。



3. レスリング

(1) 日時

平成27年9月27日(日) 15:30～16:30

平成27年9月28日(月) 12:30～12:45

(2) 会場

那智勝浦町体育文化会館 (和歌山県那智勝浦町)



(3) 実施内容

○女子エキシビジョンマッチおよびキッズ・ジュニアレスリング教室

レスリングでは、女子種目の広報活動促進と普及・発展のため、国際大会で活躍する世界トップレベルの選手によるエキシビジョンマッチとジュニア選手を対象としたレスリング教室を実施した。

○エキシビジョンマッチ出場選手

氏名	所属	主な出場大会等
登坂絵莉	至学館大学	2015年世界選手権 48kg級 優勝
川井梨紗子	至学館大学	2015年世界選手権 63kg級 第2位
岩群安奈	アイシン・エイ・ダブリュ	2014年アジア選手権 48kg級 第3位
土性沙羅	至学館大学	2015年世界選手権 69kg級 第3位



○レスリング教室講師

吉田 沙保里、伊調 馨、登坂 絵莉、
川井 梨紗子、岩群 安奈、土性 沙羅

○競技スケジュール

9月27日(日)

10:00～ 男子フリースタイル1・2回戦

(終了後、女子日本代表選手によるレスリング教室の準備)

15:30～16:30 キッズ・ジュニアレスリング教室

9月28日(月)

9:30～12:30 男子フリースタイル準々決勝・準決勝

(終了後、女子日本代表選手によるエキシビジョンマッチの準備)

12:30～12:45 登坂 - 岩群

川井 - 土性



(4) 今後の課題等

エキシビジョンマッチは、少年男子・成年男子の準決勝終了後に実施した。女子種目は男子と同会場・設備で開催できるため、競技運営上特段の問題は発生しなかった。

国体への正式種目導入にあたっては、現在(男子)の競技日程(4日間)内で女子種目が追加実施されることから、試合間の時間調整等について注意を払う必要がある。

4. ウェイトリフティング

(1) 日時

平成27年10月1日(木) 12:50～14:10

(2) 会場

片男波公園健康館(和歌山県和歌山市)



(3) 実施内容

○公認記録への挑戦(全国女子選抜記録会)

ウェイトリフティングでは、ジュニア日本記録、高校記録、中学記録への挑戦を多くの観客に見ていただくことで、競技の迫力を感じ、女子種目に関する興味・関心を更に高めることを目的に、各カテゴリーで日本記録に挑戦可能なジュニア世代の女子選手5名による記録会を実施した。

○出場選手

階級	氏名	所属	都道府県	学年
44kg級	武藤 理恵瑠	与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校	京都府	1
69kg級	中島 一馨	珠洲市立緑丘中学校	石川県	2
63kg級	石井 未来	三重県立亀山高等学校	三重県	3
69kg級	柏木 麻希	早稲田大学	京都府	1
+75kg級	嶋本 美愛	金沢学院大学	和歌山県	2

○競技結果

階級	氏名	体重	スナッチ			クリーン&ジャーク			ベスト		トータル
			1	2	3	1	2	3	S	C&J	
44kg級	武藤 理恵瑠	43.54	48	50 MR	52 ×	56	59	61 ×	50	59	109
69kg級	中島 一馨	66.60	65	67 MR	69 MR	74	77 ×	77	69	77	146 MR
63kg級	石井 未来	62.98	81	85 ×	88 ×	98 ×	98 ×	98	81	98	179
69kg級	柏木 麻希	68.46	83	87	90	103	107	110	90	110	200
+75kg級	嶋本 美愛	104.36	95 ×	99 ×	103 ×	117	121 ×	121	—	121	—

MR=中学記録

○競技スケジュール

10:00～ 少年男子105kg級、+105級

(終了後、女子選手による記録会の準備)

11:00～12:00 検量

12:50～ 選手紹介

13:13～14:00 記録会

14:00～14:10 記録認定証授与



(4) 今後の課題等

女子選手による記録会は、ウェイトリフティング競技会最終日の全日程終了後に実施した。女子種目実施時にはバーを男子用から女子用に変更する必要があったが、大きな問題も無くスムーズに運営を行うことができた。

国体への正式種目導入にあたっては、男子と同会場で開催(5日間)内での開催が想定されるため、試合間の時間調整等について注意を払う必要がある。

5.自転車

(1) 日時

平成27年9月28日(月)、29日(火)、10月1日(木)

(2) 会場

和歌山競輪場 (和歌山県和歌山市)

(3) 実施内容

○女子エキシビジョンレース

自転車では、国体観戦者に自転車競技の魅力と女子種目のトップレベル選手の実力をPRすることを目的に、日本自転車競技連盟登録選手15名が参加し、チーム・スプリント、ケイリン、ポイント・レースの3種目をエキシビジョンレースとして実施した。



○競技スケジュール・出場選手・競技結果

9月28日(月)

12:15 ~ チーム・スプリント 決勝

順位	チーム名	氏名	所属	記録
1	高校スペシャルチーム	平井 杏奈	祐誠高校	57秒967
		細谷 夢菜	浦和工業高校	
2	鹿屋体育大学大学院	塚越 さくら	鹿屋体育大学大学院	58秒668
		上野 みなみ	鹿屋体育大学大学院	
3	大学スペシャルチーム	清水 知美	八戸学院大学	59秒870
		小島 蓉子	日本体育大学	
4	日本体育大学	中村 妃智	日本体育大学	1分01秒352
		齋藤 望	日本体育大学	
5	鹿屋体育大学	江藤 里佳子	鹿屋体育大学	1分02秒458
		高田 奈生	鹿屋体育大学	
6	早稲田大学	中嶋 綺砂	早稲田大学	1分06秒725
		池田 ゆめこ	早稲田大学	

9月29日(火)

13:35 ~ ケイリン 予選

<1組>

順位	氏名	所属	記録
1	塚越 さくら	鹿屋体育大学大学院	12秒678
2	細谷 夢菜	浦和工業高校	
3	高田 奈生	鹿屋体育大学	
4	江藤 里佳子	鹿屋体育大学	
5	宮田 菜摘	朝日大学	
6	池田 ゆめこ	早稲田大学	



<2組>

順位	氏名	所属	記録
1	平井 杏奈	祐誠高校	13秒742
2	中嶋 綺砂	早稲田大学	
3	清水 知美	八戸学院大学	
4	西島 叶子	鹿屋体育大学	
5	上野 みなみ	鹿屋体育大学大学院	

13:35 ~ ケイリン 決勝

順位	氏名	所属	記録
1	塚越 さくら	鹿屋体育大学大学院	12秒581
2	細谷 夢菜	浦和工業高校	
3	平井 杏奈	祐誠高校	
4	清水 知美	八戸学院大学	
5	中嶋 綺砂	早稲田大学	
6	高田 奈生	鹿屋体育大学	



10月1日(木)

9:00 ~ スクラッチ 決勝

順位	氏名	所属	記録
1	塚越 さくら	鹿屋体育大学大学院	10分41秒12
2	江藤 里佳子	鹿屋体育大学	
3	小島 蓉子	日本体育大学	
4	細谷 夢菜	浦和工業高校	
5	上野 みなみ	鹿屋体育大学大学院	
6	中村 妃智	日本体育大学	
7	齋藤 望	日本体育大学	
8	谷 伊央里	日本体育大学	
DNF	高田 奈生	鹿屋体育大学	
DNF	西島 叶子	鹿屋体育大学	
DNF	清水 知美	八戸学院大学	
DNF	中嶋 綺砂	早稲田大学	
DNF	池田 ゆめこ	早稲田大学	
DNF	宮田 菜摘	朝日大学	
DNF	平井 杏奈	祐誠高校	



(4) 今後の課題等

エキシビジョンレースは、男子の競技間（午前・午後）および競技開始前に実施した。自転車ではこれまでも競技団体独自の取組みとして、国体において女子種目の紹介等を実施しており、競技運営上特段の問題は発生しなかった。

国体への正式種目導入に向けては、女子種目は男子と同会場・設備で開催できるものの、レース数の増加が想定されることからレース間の時間調整等について注意を払う必要がある。

6. ラグビーフットボール

(1) 日時

平成27年10月4日(日) 10:00～

(2) 会場

サン・ナンタンランド多目的グラウンド (和歌山県串本町)

(3) 実施内容

○女子エキシビジョンマッチ

ラグビーフットボールでは、正式競技導入後の都道府県対抗形式の準備段階として、全国3地域協議会（関東・関西・九州）から女子選手を選抜して代表チームを組み、3チームによる7人制エキシビジョンマッチを実施した。

○出場チーム

関東代表、関西代表、九州代表

○競技スケジュール・競技結果

10:00～ 第1試合 関東代表 26 - 0 九州代表

11:42～ 第2試合 関西代表 10 - 12 関東代表

13:30～ 第3試合 九州代表 15 - 12 関西代表

(4) 今後の課題等

エキシビジョンマッチは、7人制として実施している成年男子の競技の間に行った。ラグビーフットボールではこれまでも競技団体独自の取組みとして、国体において女子種目の紹介等を実施しており、競技運営上特段の問題は発生しなかった。

国体への正式種目導入に向けては、女子種目は男子と同会場・設備で開催できるものの、試合数の増加が想定されることから試合間の時間調整等について注意を払う必要がある。

